

平田地区
復興まちづくり協議会・地権者連絡会

平成27年3月10日(火)
18:30～

次 第

1. 挨拶
2. 工事進捗状況及びスケジュールについて
3. 宅地整備基準（案）について
4. 災害危険区域の指定について
5. 公開試験盛土の開催結果について
6. 平田漁港海岸防潮堤について
7. 釜石港湾口防波堤の復旧状況について
8. 意見交換

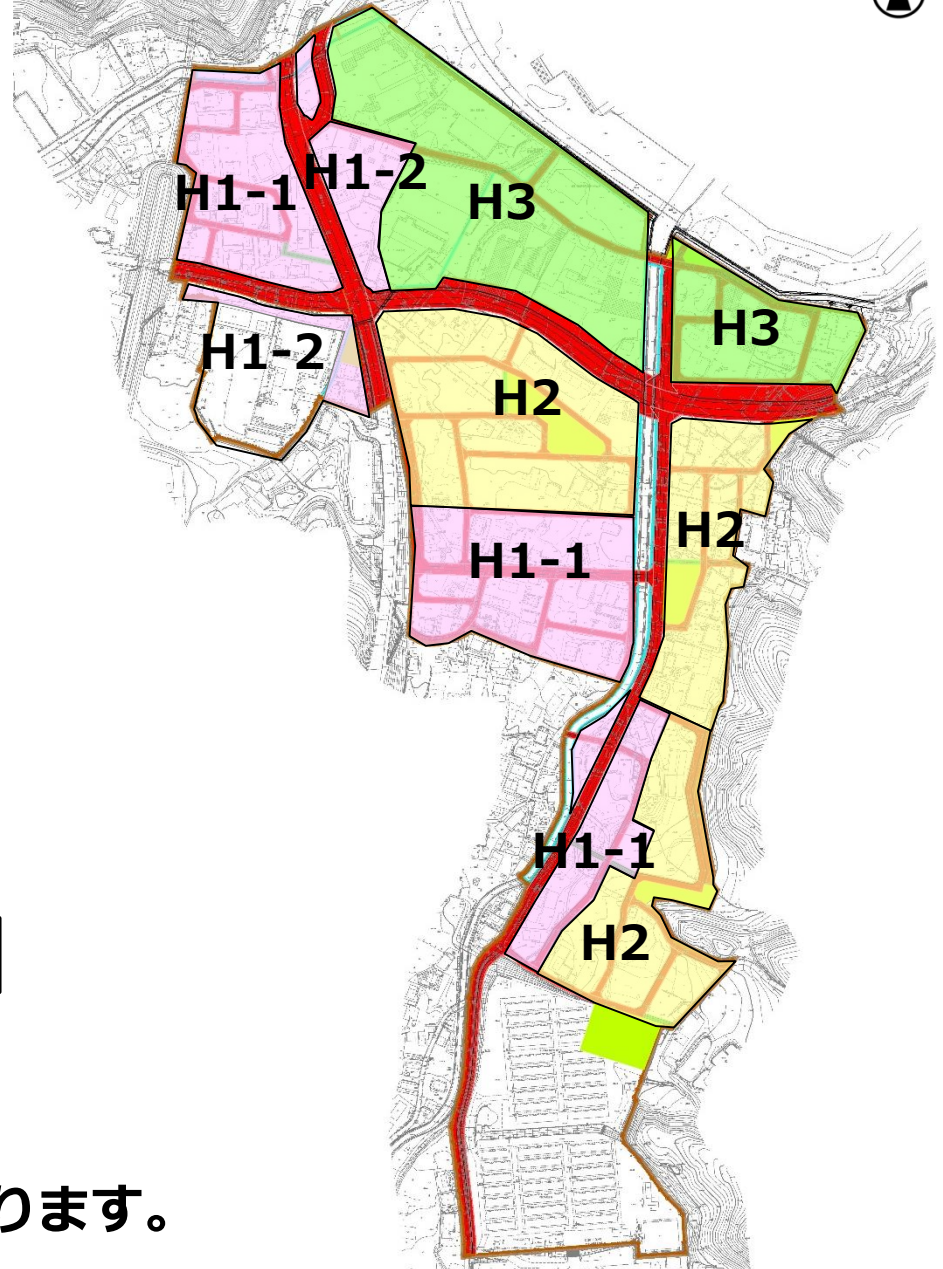
1. 挨拶

2. 工事進捗状況及びスケジュールについて

宅地引渡し予定（使用収益開始）

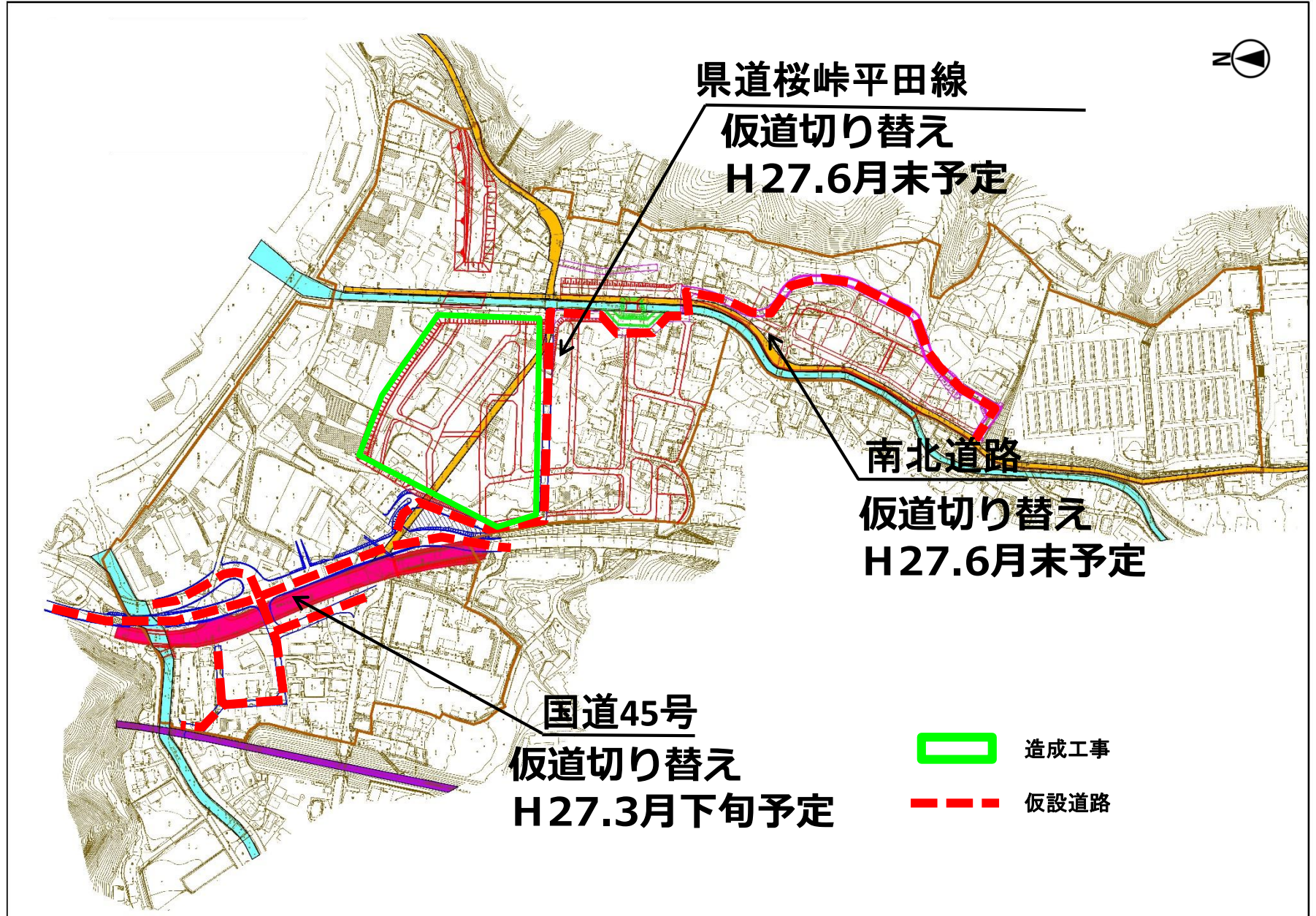


| H27 | H28 | | H29 | |
|-----|------|------|-----|----|
| 12 | 1 | 12 | 1 | 12 |
| | H1-1 | | | |
| | | H1-2 | | |
| | | | H2 | |
| | | | | H3 |

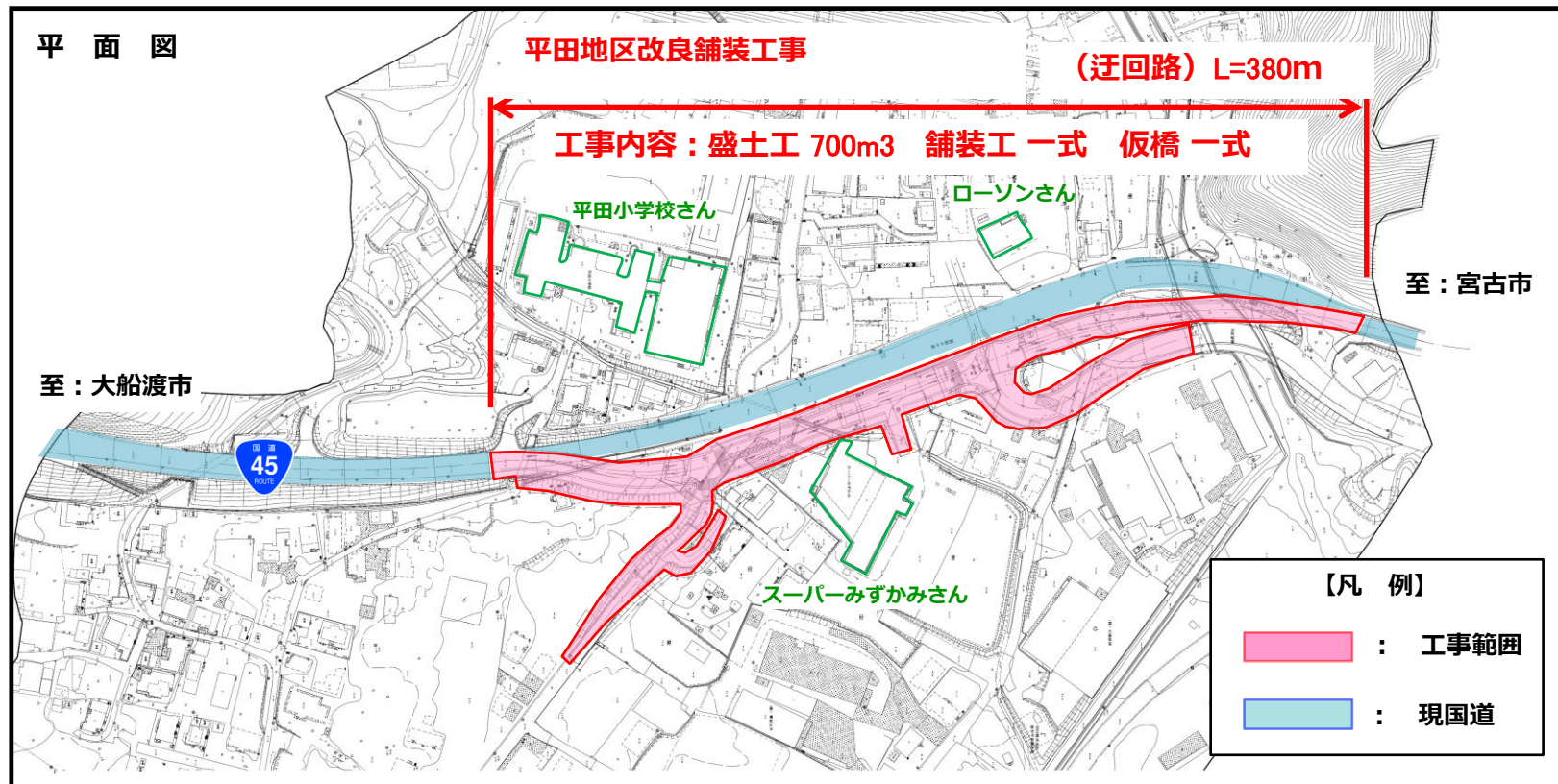


※ 状況に応じて変更することがあります。

工事の状況



国道工事 当初計画の変更



※前回まちづくり協議会資料より

前回まちづくり協議会提示時点

H26.12月切り替え予定

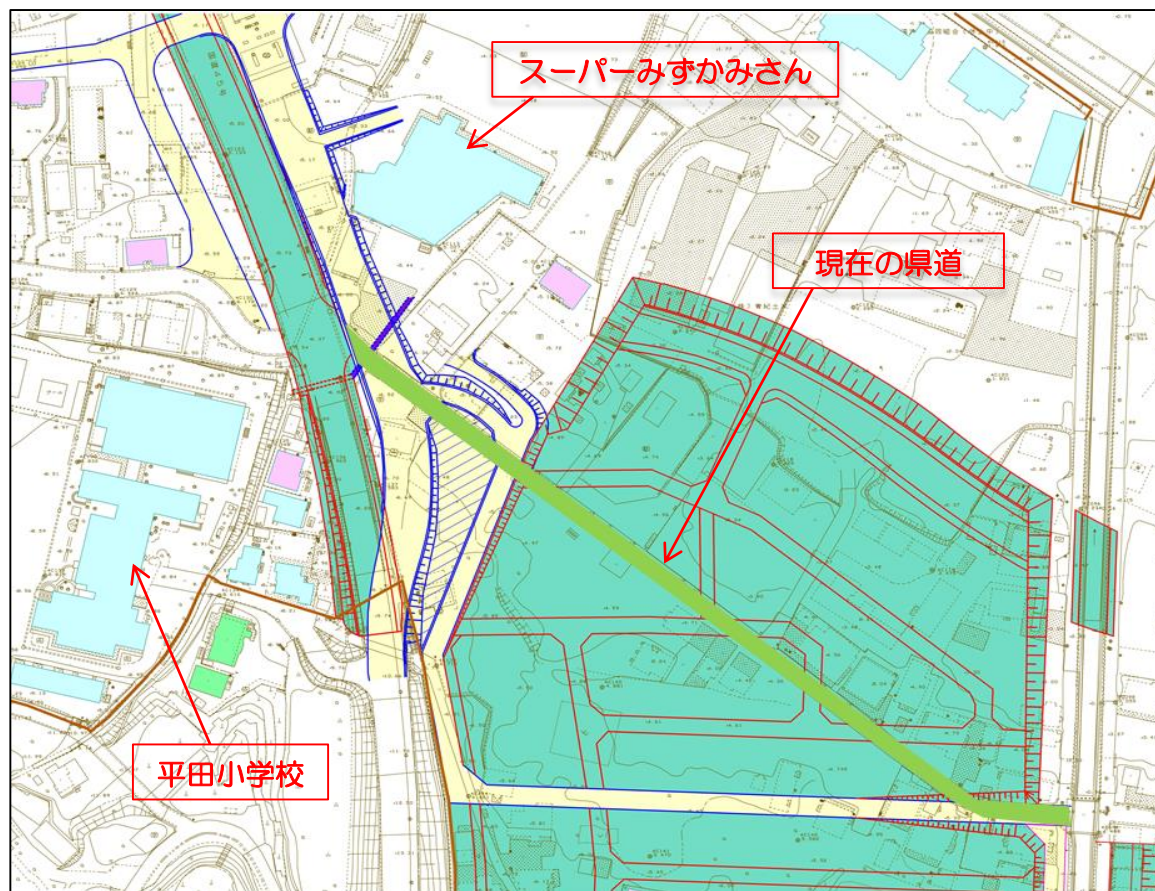
【変更理由】

- ・仮設橋の工事遅延
- 当初想定していた転石よりも大きく杭が入らず、工事が難航したため。



H27.3月下旬切り替え予定

県道工事 当初計画の変更



前回まちづくり協議会提示時点 H26.12月切り替え予定

【変更理由】

- ・支障物件の移設調整に時間を要したこと
- ・仮設国道への切り替え時期変更の影響



H27.6月末切り替え予定

南北道路 今後の見通し

【現在の状況】

①仮橋の位置を変更

→地域に説明のうえ、工事着手

【仮設道路への切り替えの見込み】

H27.4月切り替え予定



H27.6月末切り替え予定

【変更理由】

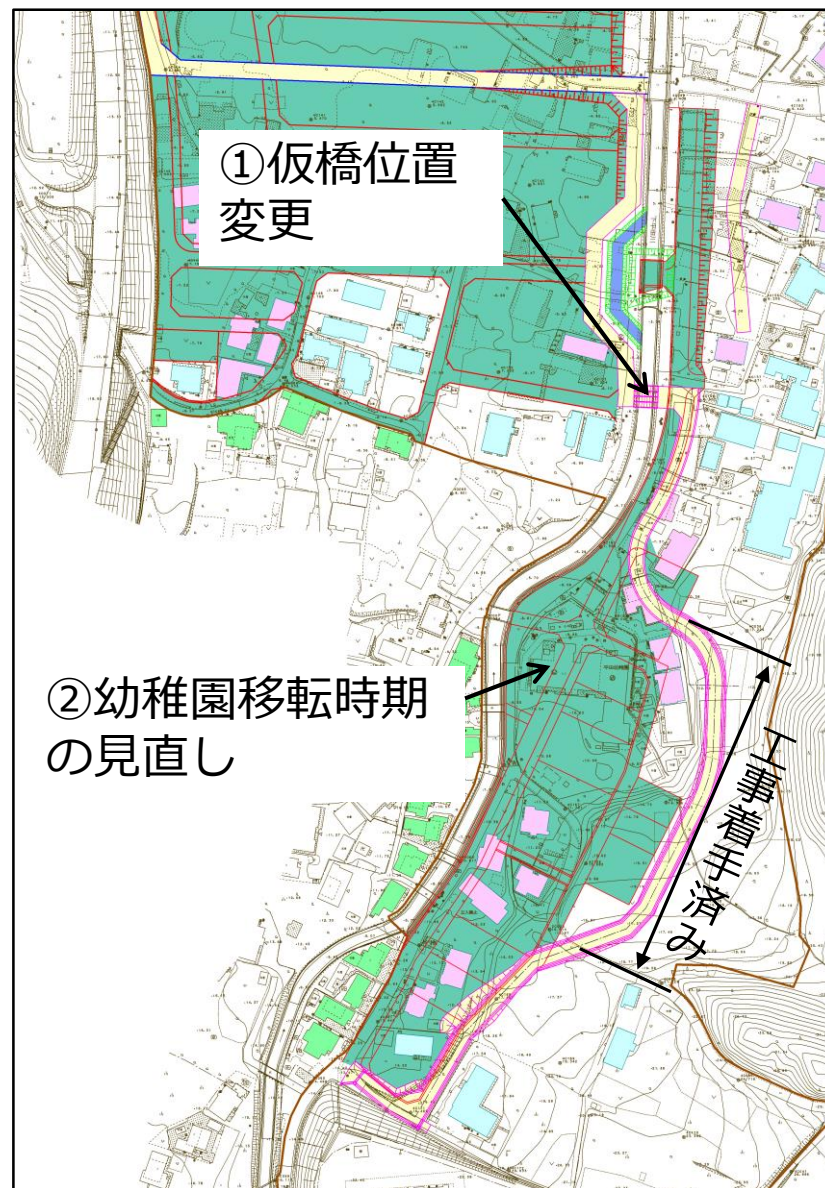
- ・仮設道路線形の見直しによる影響

【現在の状況】

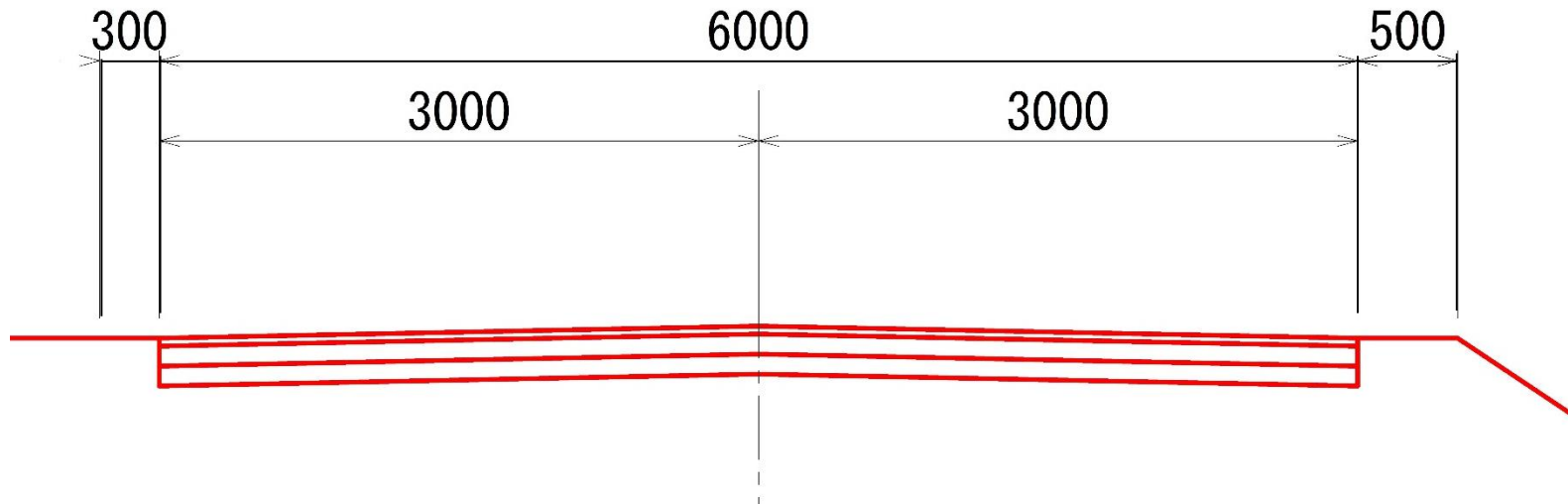
②幼稚園の移転時期の見直し

→移転先の埋蔵文化財調査が必要となったため当初予定より変更

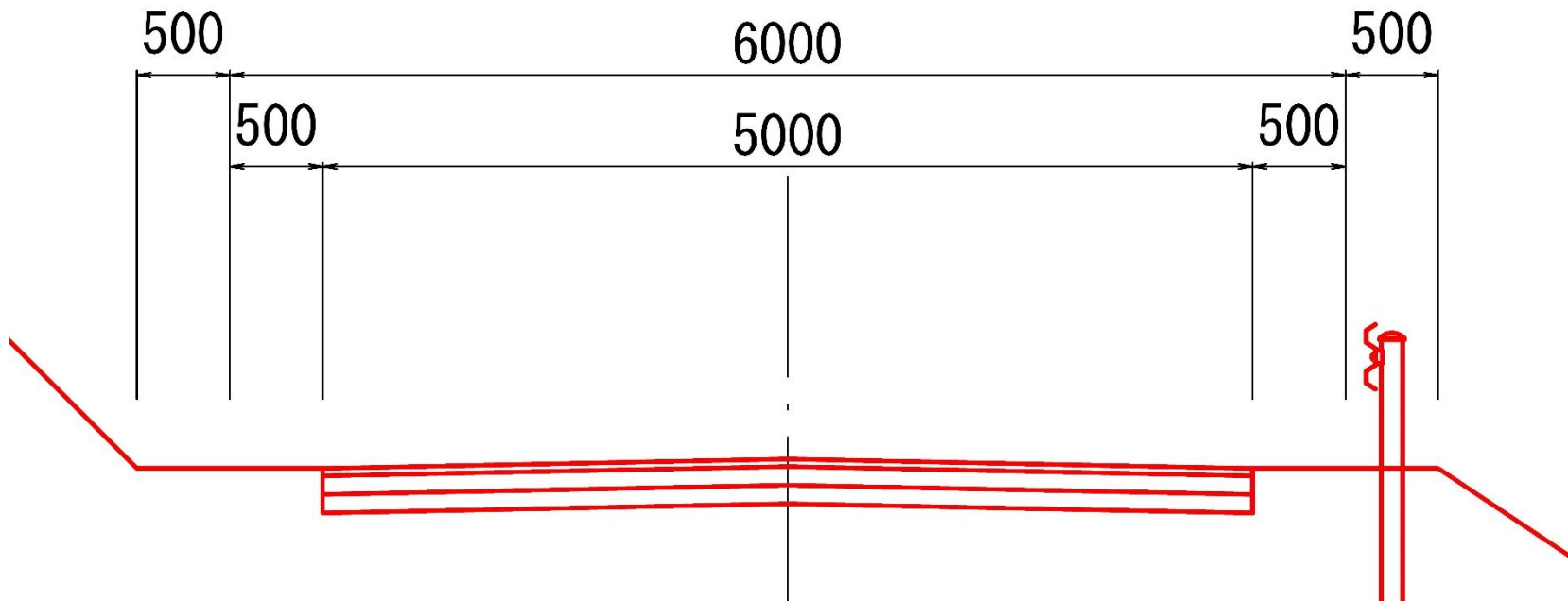
→仮設道路の交通処理等について地域に説明し、予定通り南北道路の工事着手



仮設道路標準断面（県道）



仮設道路標準断面（南北道路）



3. 宅地整備基準（案）について

宅地整備基準（案）について

（ １ ） 宅地整備

①宅地の計画地盤高

宅地の計画地盤高は、原則として宅地が接する計画道路より高く設定します。

②宅地の高低差処理

宅地と道路及び宅地間に生じる高低差の処理は、以下の表のとおりとします。

高低差処理

30cm未満

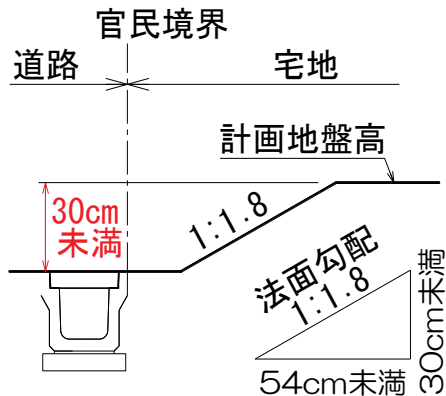
30cm以上

擁壁は設置しません。

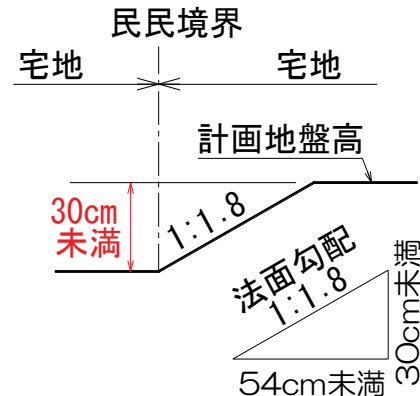
擁壁を設置します。

【標準図】

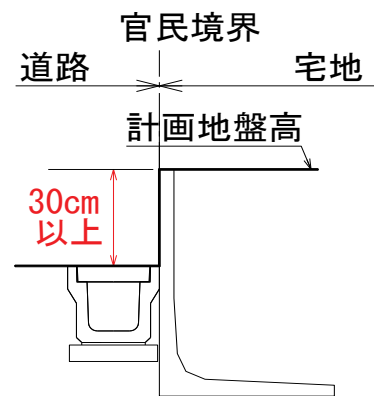
(官民界の場合)



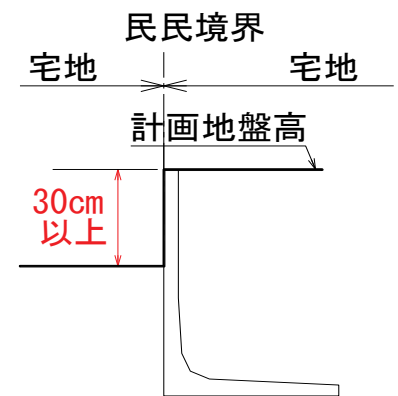
(民民界の場合)



(官民界の場合)



(民民界の場合)

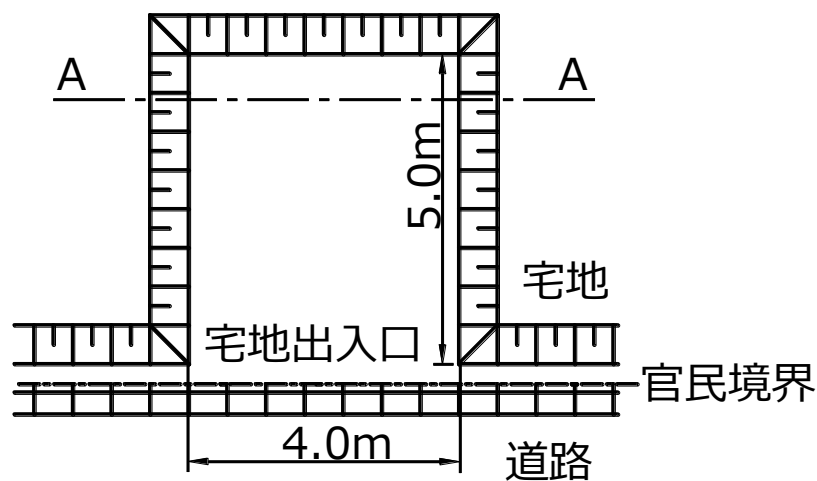


③宅地出入口

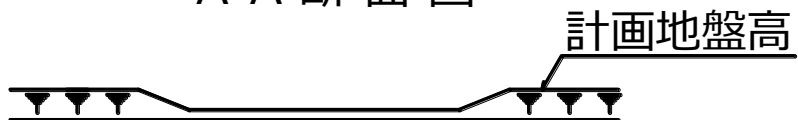
- (イ) 宅地が計画道路に接する部分に、原則として画地に1箇所幅4.0m、奥行き5.0mの宅地出入口を設けます。
- (ロ) 原則として道路と宅盤との高低差の小さい側に設置します。
- (ハ) 宅地出入口が歩道付道路に面する場合は、車の乗り入れを想定し歩道の切り下げを行います。その場合の切り下げの間口は原則として4.0mとします。

【標準図】

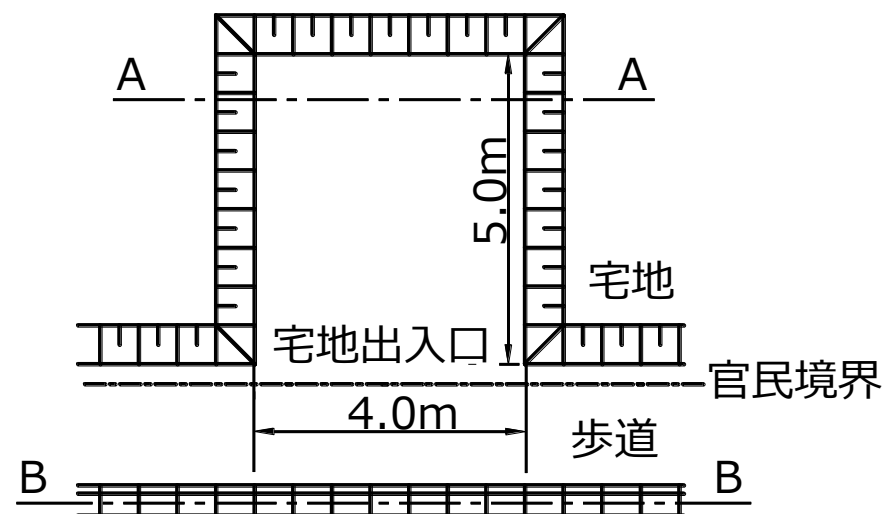
(1) 歩道なし (U字側溝) の場合



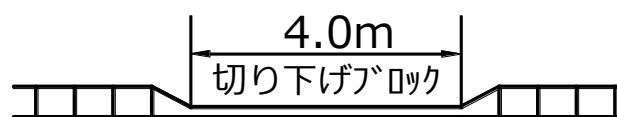
A-A 断面図



(2) 歩道ありの場合



B-B 断面図

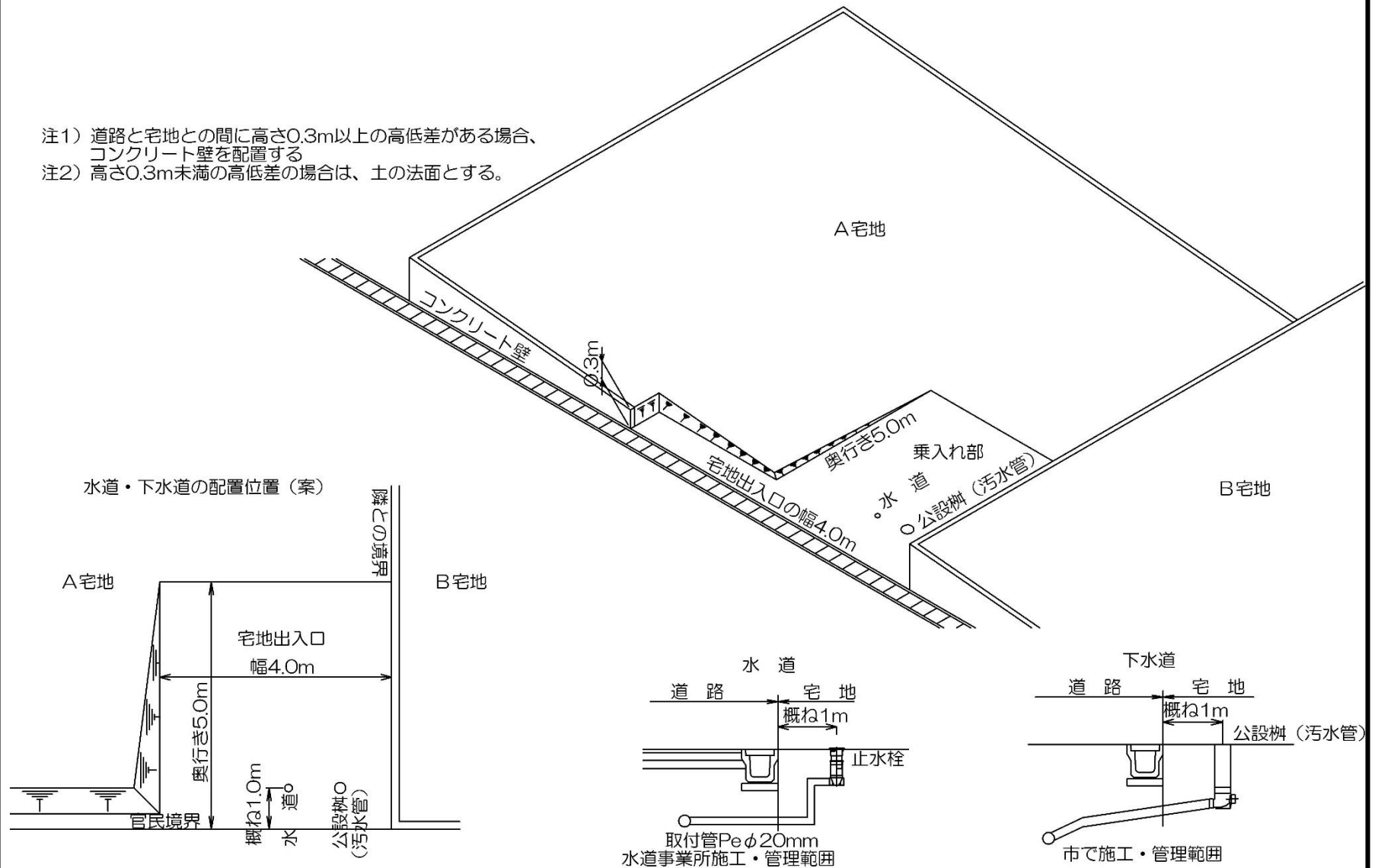


（ ２ ） 宅地への供給処理施設の引き込み

供給処理施設（公設枡（汚水枡）及び上水道取付管）を原則として
1 画地に 1 箇所、宅地の出入口部に設置します。

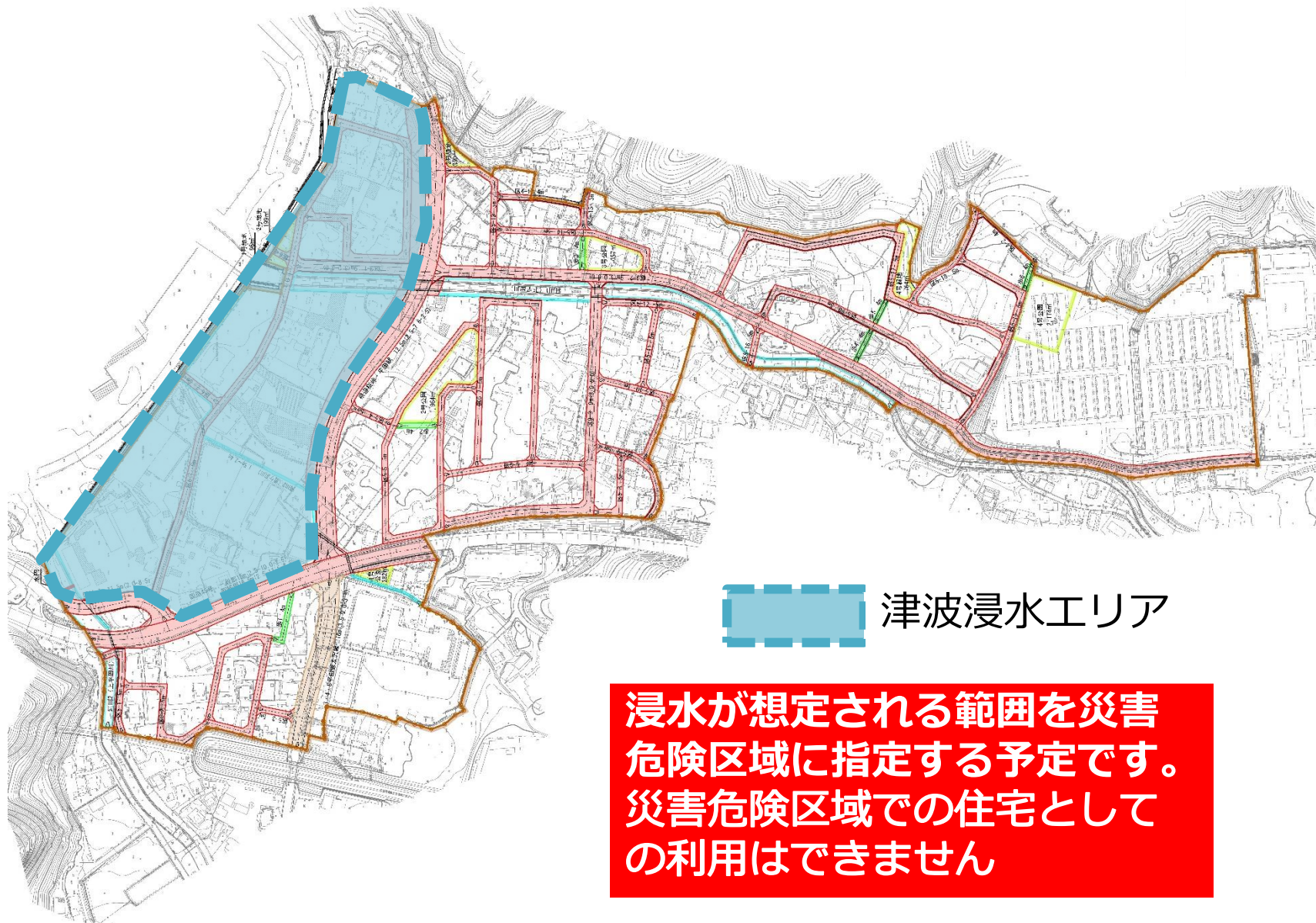
【宅地造成の姿図概要】

- 注1) 道路と宅地との間に高さ0.3m以上の高低差がある場合、
コンクリート壁を配置する
注2) 高さ0.3m未満の高低差の場合は、土の法面とする。



4. 災害危険区域の指定について

災害危険区域の指定について



浸水が想定される範囲を災害危険区域に指定する予定です。災害危険区域での住宅としての利用はできません

5. 公開試験盛土の開催結果について

■ 公開試験盛土を開催いたしました

日時：H26年12月14日（日）9：00～10：00

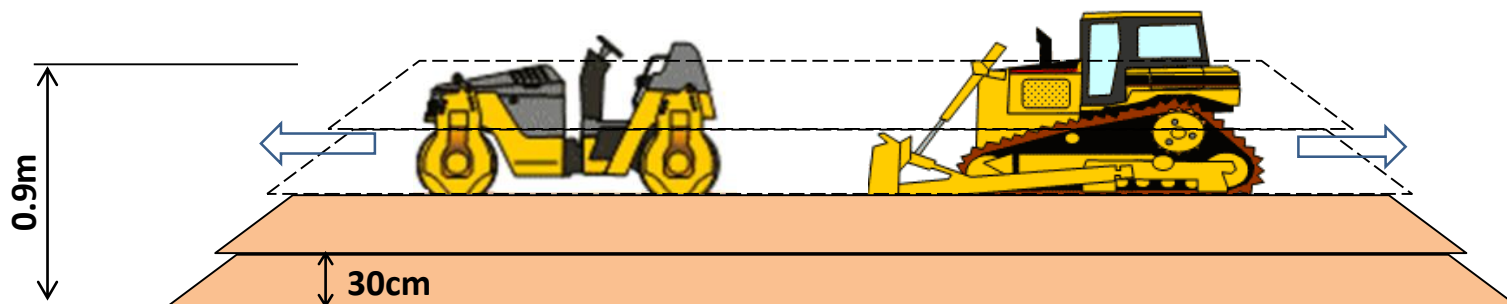
住民参加人数：28名（平田会場）

目的

釜石市の復興事業はマサ土(かこう岩が土砂になったもの)が多く、実際に見て、さわって、体感していただき、安全性を確認すると共に安心感を提供することを目的とする。

実施内容

- 「安全」を確認する試験盛土
 - ①盛土モデル、②施行例（実施事例）、③盛土基準の説明
- 「安心」を確認してもらう試験盛土
 - 1層当たり30cmごとの締め固め施工実演を実施。



締め固めイメージ

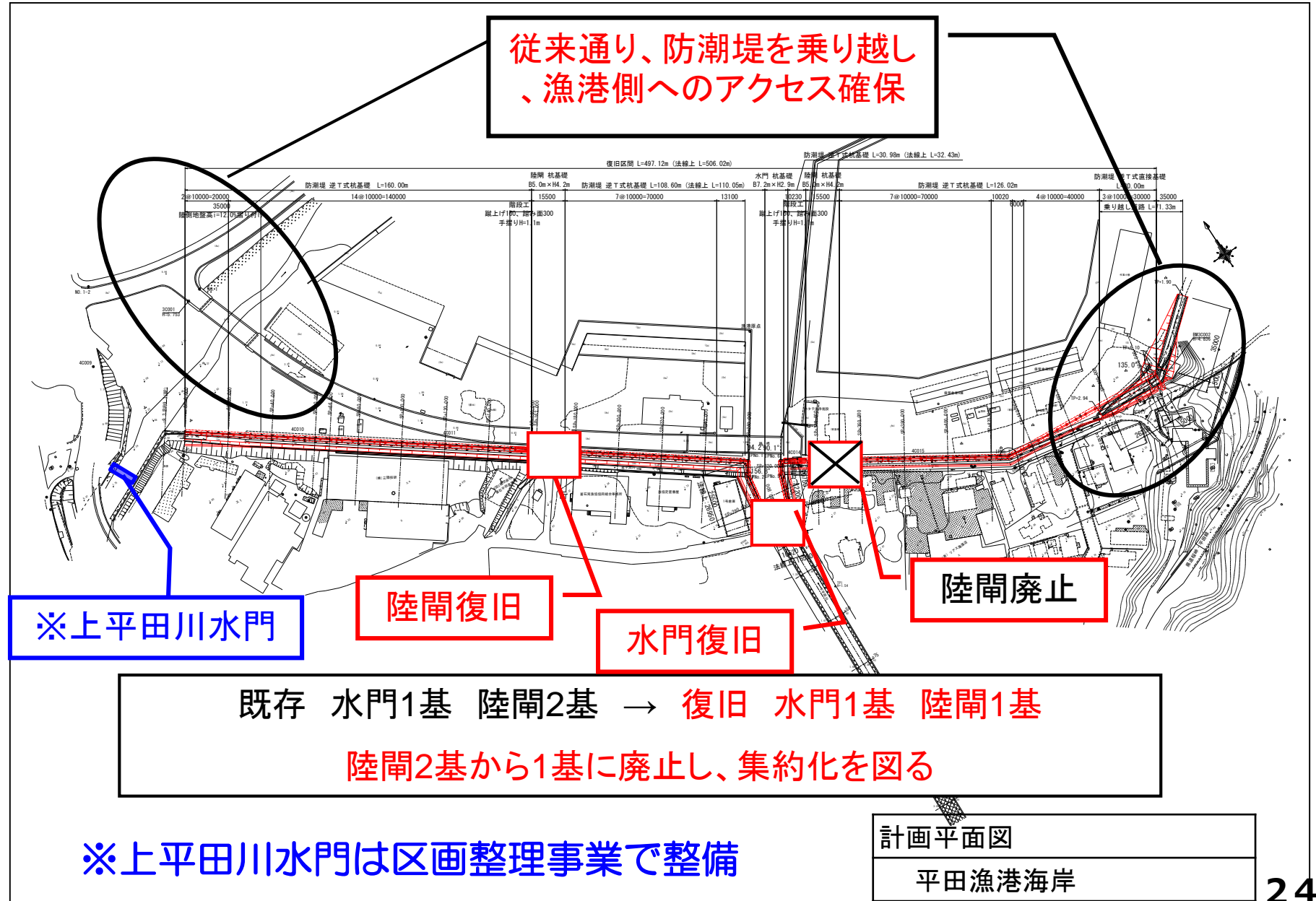


公開試験盛土の様子

公開試験盛土の結果、マサ土（かこう岩が土砂になったもの）を適切に処理して使用すると、安全であることが確認されました。

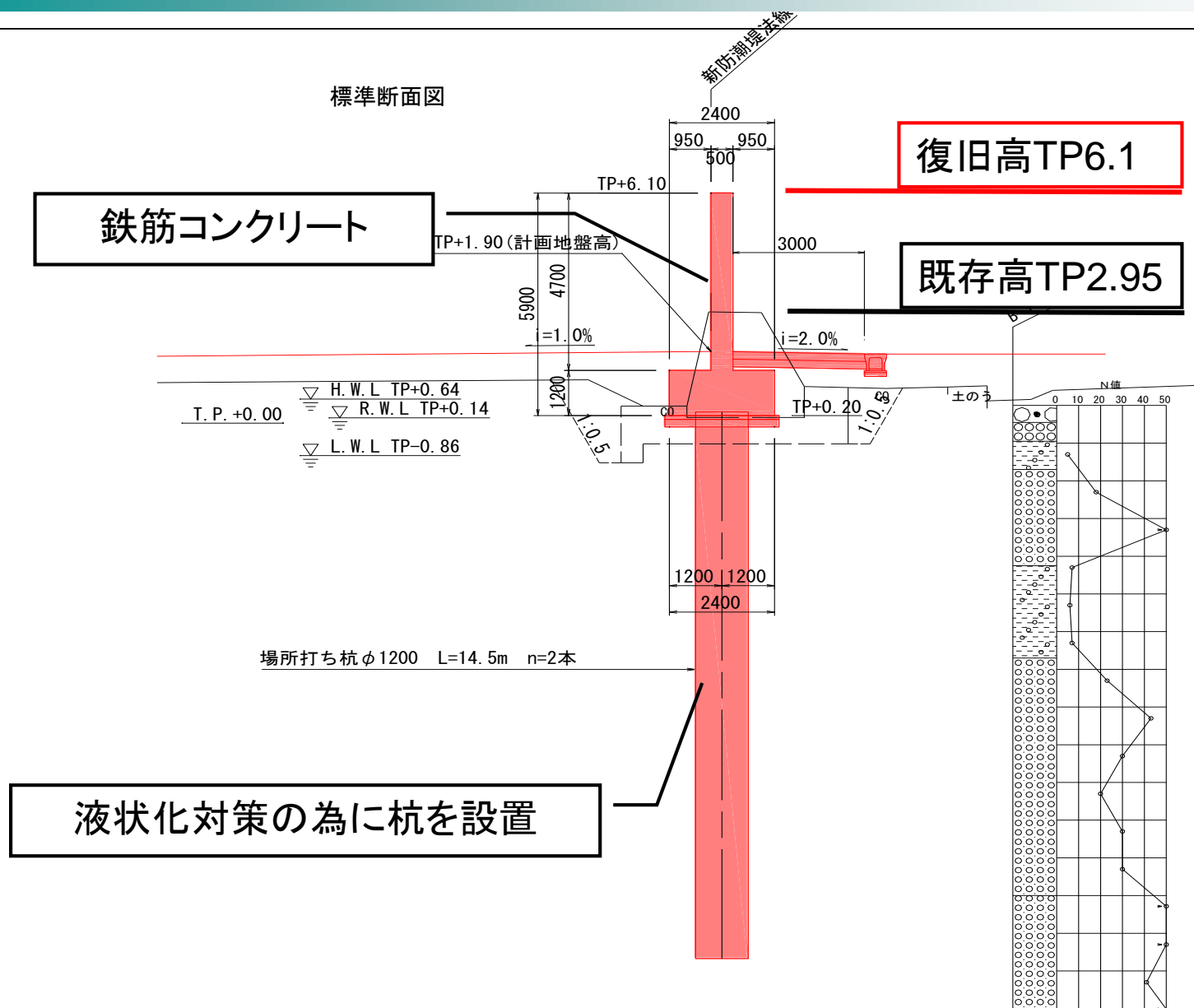
6. 平田漁港海岸防潮堤について

復旧計画の平面



復旧計画の断面

標準断面図



液状化対策の為に杭を設置

安全設備の事例①

監視カメラ

水門陸閘操作の際に周辺の安全確認、ゲート動作確認を行う。

陸側からの視点



回転灯

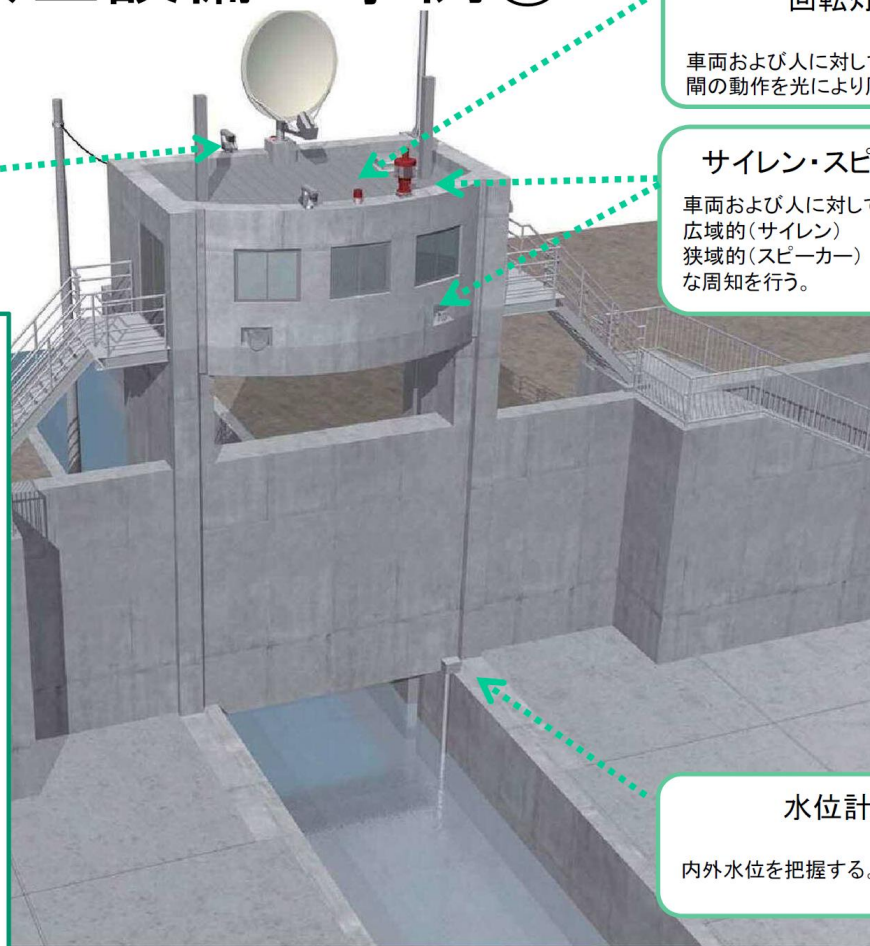
車両および人に対して、水門陸閘の動作を光により周知を行う。

サイレン・スピーカー

車両および人に対して、広域的(サイレン) 狭域的(スピーカー) な周知を行う。

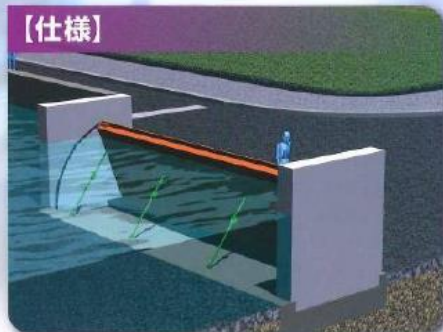
水位計

内外水位を把握する。



neo RiSe 主仕様

【仕様】



【主仕様】

- 扉高/1m～5m(記載寸法以上は志願)
- 総荷重/T-25

【適用範囲】

- 防波堤開口部や河川堤防開口部に設置される陸開ゲート
- 立体交差部のボックスカルバート内に設置される陸開ゲート

【対象】

- 津波、高潮、洪水、ゲリラ豪雨 等

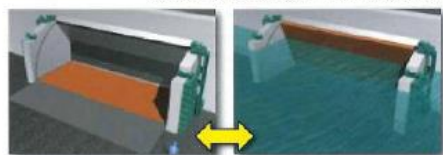
【駆動方式】

- 浮力
- 浮力+手動起立装置

【適用事例】



防波堤開口部・3方水密の例(平成27年度設置決定)



4方水密・遠隔操作付の例

その他



河川部/通船部/景観改善の例

【実施状況】



●埋設型



●湛載型

操作不要の自立防潮壁——3つの特長



特長 1 シンプルな機器構成 無動力で操作不要



浮体活用によるシンプルな機器構成により、
信頼性向上と人的負担を軽減。
また、メンテナンスも簡単です。



特長 2 上載荷重に対する頑強さと軽さの両立 (走行車両)



●通常は路面として待機



●普通乗用車



●フォークリフトなどの高接地車両

特長 3 水位に追従した滑らかな動作 素早い起立動作と衝撃吸収



【仕様】

イメージ図



水の浮力で自動閉鎖

- ・水による浮力にて閉鎖
- ・人的操作不要

平田漁港海岸事業

[illegible]

上平田川水門の工程

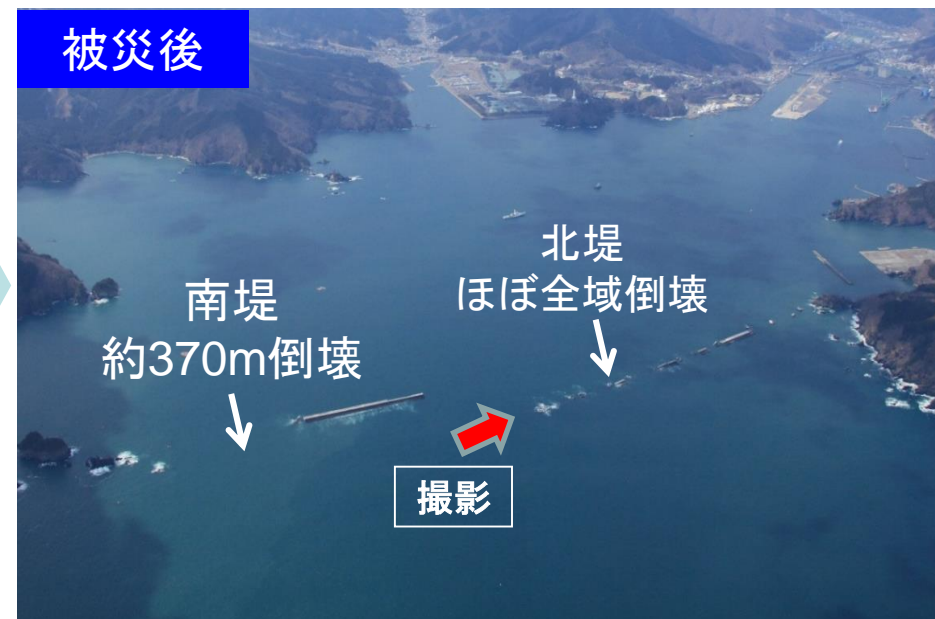
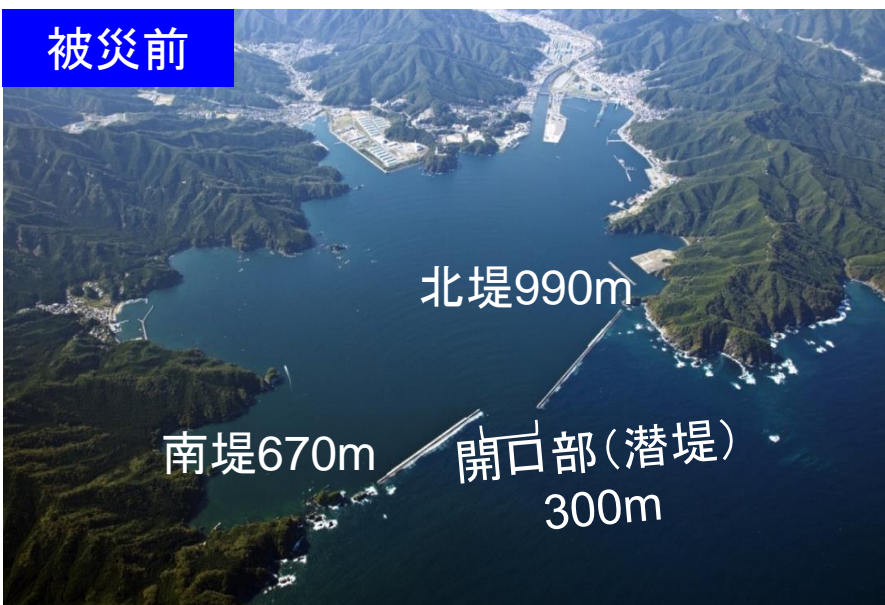
| 項 目 | H26年度 | | | | | | H27年度 | | | | | | 平成28年度 | | | | | | 平成29年度 | | | | | |
|-----------|-------|--|--|----|--|--|-------|--|--|----|--|--|--------|--|--|----|--|--|--------|--|--|----|--|--|
| | 上期 | | | 下期 | | | 上期 | | | 下期 | | | 上期 | | | 下期 | | | 上期 | | | 下期 | | |
| 基本設計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 詳細設計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工（調整を含む） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※上記の工程は状況に応じて変更となる場合があります。

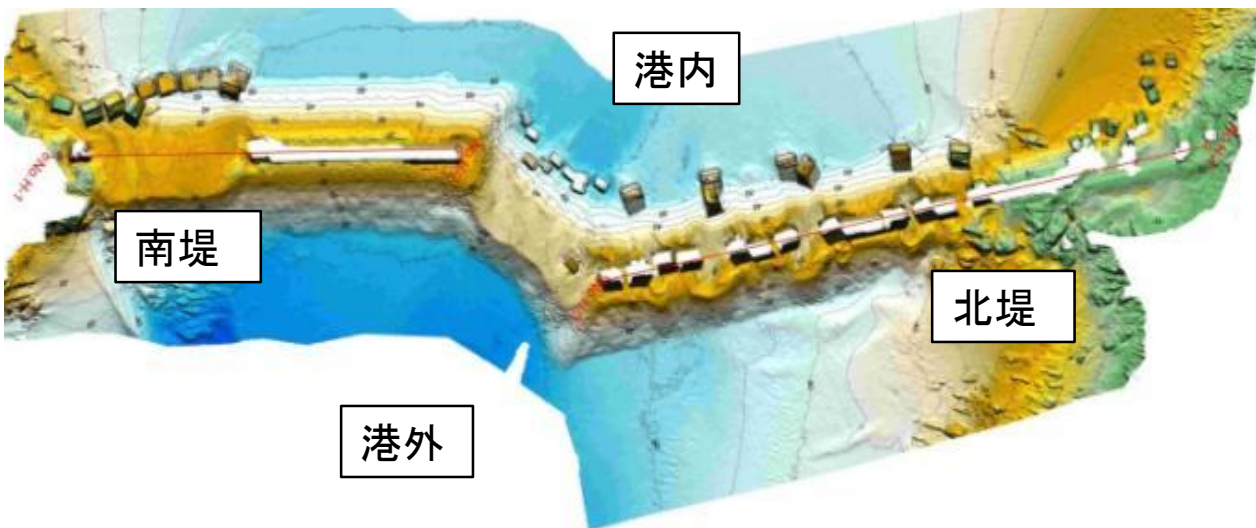
7. 釜石港湾口防波堤の復旧状況について

(国土交通省東北地方整備局釜石港湾事務所)

湾口防波堤の被災状況



ナローマルチビーム測量結果
(面的に海底を測量した結果)



(撮影) 北堤の倒壊状況

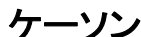


假設航路



据付完了

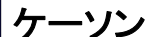
- ②基礎マウンド造成 並行して ケーソン製作



- #### ④中詰材投入



- ### ⑤上部コンクリート打設



○釜石港では労務、資機材不足への対応と工期短縮を図るため、他地域の応援によるハイブリッドケーソンの製作を千葉港、名古屋港、津松阪港の3箇所で長さ50mのケーソンを計6函行った。

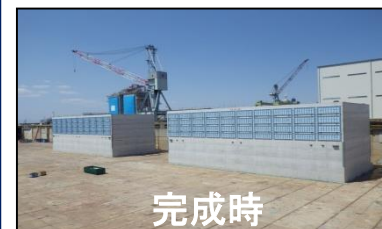
○ハイブリッドケーソンは、鉄筋コンクリートに鋼材や鋼板を組み合わせた構造となっており、通常のケーソンに比べ、堤体幅が狭く、また施工延長方向に長尺とすることができるため、施工性に優れる。



JFEエンジニアリング(株)
津製作所
ハイブリッドケーソン製作



ハイブリッドケーソン製作工程



施工順

ハイブリッドケーソンを通じた交流

三重県津市

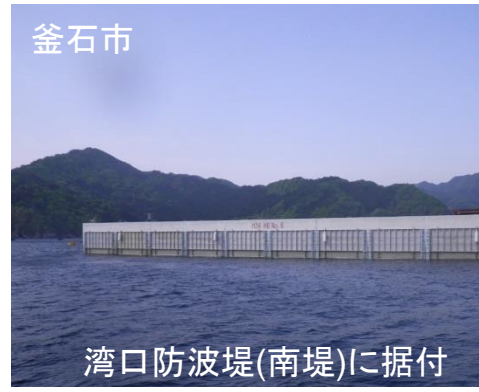


ハイブリッドケーソン製作

ハイブリッドケーソンの釜石入港



釜石市



湾口防波堤(南堤)に据付

津市立香良洲小学校から(H26.2)

応援メッセージ

ビデオレター



ハイブリッドケーソンが製作された津市から小学生の熱い気持ちが届けられた。

横断幕による応援メッセージ



釜石市長へのビデオレター贈呈

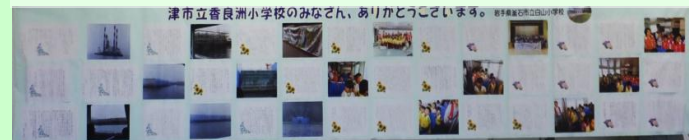


船上からの防波堤見学 H27.7



釜石市立白山小学校から(H27.10)

香良洲小学校へお礼メッセージ



釜石市長へメッセージの報告→



←釜石市長からの御礼の手紙

御礼の除幕式

「釜石港の今」を説明



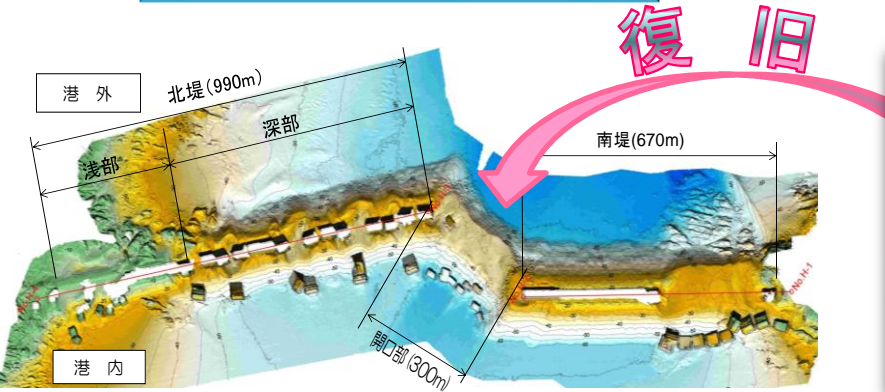
白山小学校からのお礼贈呈式(H27.11)



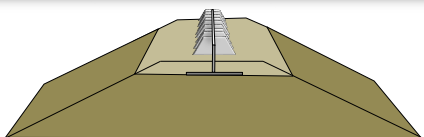
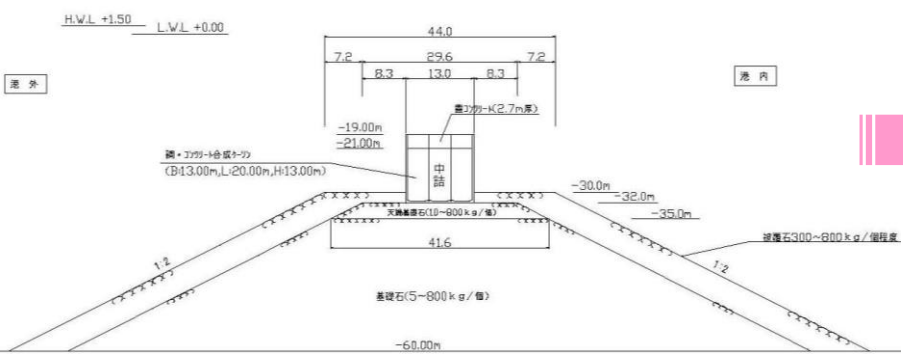
開口部 潜堤逆T型ブロックの構造

- 津波を防ぐため、大型船航行に必要な水深を確保しつつ、航路の下に潜堤を設置。
- 当初の建設時には、HBケーソン構造の潜堤を築造したが、震災により流出。
- 残った基礎マウンドを利用し、水中作業の容易性、構造の信頼性等から逆T型ブロック構造を採用し、潜堤を復旧中。

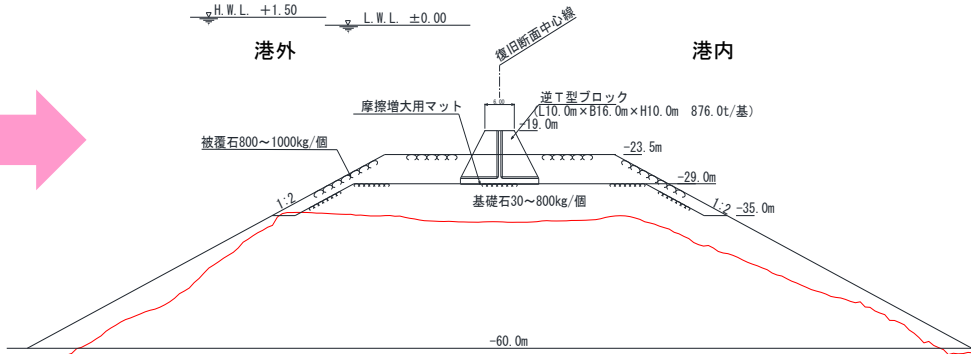
ナローマルチビーム測量結果



開口部 潜堤横断面図



開口部 潜堤 復旧イメージ



8. 意見交換
